

調布市気候変動 アクションプログラム 策定に関する事例紹介

令和8年度 気候変動適応計画策定研修

令和8年7月21日
東京都調布市



調布市ゼロカーボンシティ宣言

調布市地球温暖化対策啓発キャラクター
「ゴヤたん」「完熟ゴヤたん」

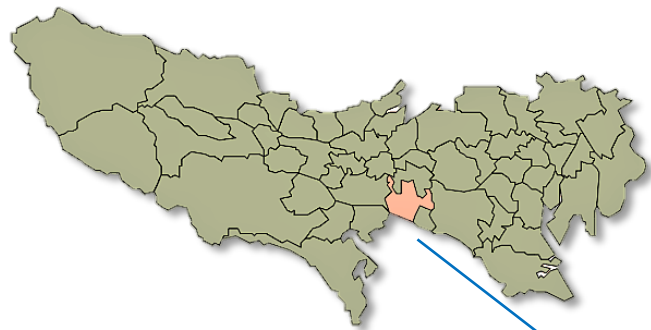


調布市は2050年
二酸化炭素排出実質ゼロ
を目指しています



東京都調布市のプロフィール

位置



面積

21.58km²

人口

241,841人

世帯

127,340世帯

市内建物数

49,161棟
(うち住宅42,871棟)

- 東京都のほぼ中央、多摩地域の南東部、新宿副都心から約15km
- 市全域が都市計画区域指定、大半は市街化区域、宅地の割合が約9割
- 民間事業所数は5,663事業所、第三次産業が約9割

味の素スタジアム&京王アリーナTOKYO



多摩川&「映画のまち 調布」



時代劇・現代劇どちらの撮影にも
ふさわしい自然環境や
フィルムの現像に欠かせない
良質な地下水

調布花火



深大寺



深大寺・佐須地域の農の風景育成地区 (17.6ha)



一般会計予算規模

1,191.7億円(令和8年度当初予算)
※全会計の予算規模は1,751.3億円



調布市は 2050年「二酸化炭素排出実質ゼロ」を目指しています



紙による配布を中止したい場合は、配布受託業者(株)小平広告へ ☎042-300-3131
このマークは音声コード「Uni-Voice」です。専用アプリなどを使って音声データを聞くことができます。▶



- たくさんの調布市民が登場
わたしの「環境に良いこと」
- ゼロカーボンが学べるイベント紹介
LEDランタン工作教室 / ふりかけワークショップはか
- わがまち企業のゼロカーボン
キュービー仙川キューポート / ユウキ食品
- イラスト作成いただきました
ゲーム制作会社・ジェムドロップ

調布市ゼロカーボンシティ宣言
調布市は公共施設 庁舎等に太陽光パネルを設置しています。

多摩川
自然環境



このマークは音声コード「Uni-Voice」です。専用のアプリなどを使って音声データを聞くことができます。▶



調布市気候変動アクションプログラム



令和8(2026)年度 ▶ 令和17(2035)年度



このまちの安心を 次世代の「あたりまえ」に
～まちのチカラ みんなのチカラで ゼロカーボン～



ホームページ リンク先

調布市気候変動アクションプログラム(令和8年度から令和17年度)を策定 | 調布市

令和8(2026)年3月
調布市

調布市ゼロカーボンシティ宣言

調布市地球温暖化対策啓発キャラクター
「ゴヤたん」 「完熟ゴヤたん」



調布市は2050年
二酸化炭素排出実質ゼロ
を目指しています



それまでの地球温暖化対策実行計画(令和3年3月策定)



5-2 自然災害への対策

集中豪雨や大型台風等の極端な気象現象の頻発等に伴う水害や土砂災害に備える対策を推進します。

市の取組

○防災に関する意識啓発

- 多発する局地的短時間豪雨や強化化する台風による水害、土砂災害に対する市民の防災意識の啓発に努めます。
- 水害、土砂災害の危険性を市民に周知し、適切な避難行動につなげるため、洪水・土砂災害ハザードマップの配布、普及を図ります。

○水害対策の推進

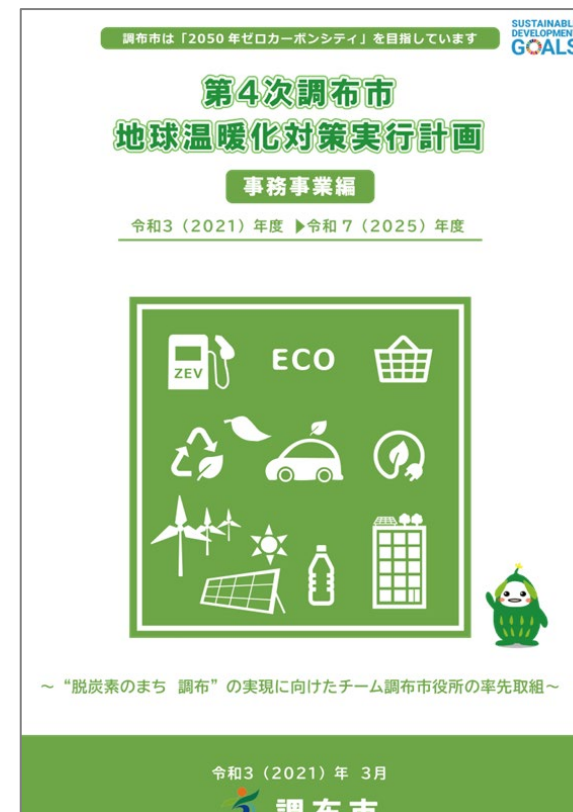
- 雨水浸透施設・雨水貯留施設の設置を推進します。
- 歩道への透水性舗装[※]の導入を推進します。
- 雨水浸透などグリーンインフラ[※]として機能する農地や緑地を保全します。
- 水害への備えとして、「土のうステーション」を設置します。
- 住宅、店舗、事業所等に止水板の設置等の浸水防止対策を講じる場合の費用の一部を助成する制度の利用促進を図ります。
- 河川の氾濫等を想定した水防態勢の万全を期することを目的に、総合水防訓練を実施します。
- 入間川において、水位警報機を運用します。
- 水害への対応に関する個別計画を策定し、対策を実施します。
- 「調布市下水道BCP(業務継続計画)」等に基づく災害対応訓練を実施します。
- 下水熱の利用を検討します。
- 避難所での電源確保について検討します。

○土砂災害対策の推進

- 土砂災害の危険性を周知し、対策を促すため、土砂災害警戒区域等・急傾斜地崩壊危険箇所に関する情報提供を進めます。



調布市洪水ハザードマップ

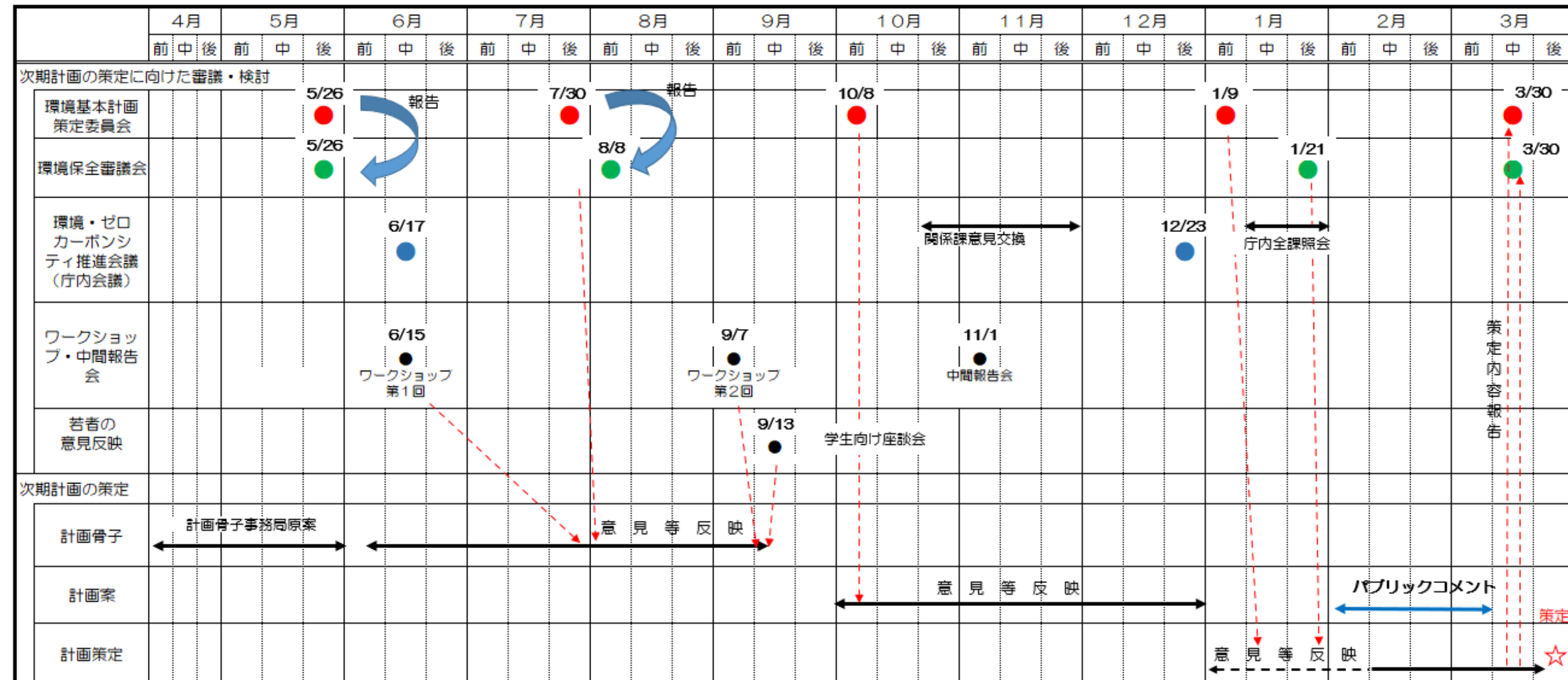


計画策定スケジュール

【令和6年度】

9月～11月 計画策定支援事業者候補選定プロポーザル、契約手続
 12月～1月 市民意識調査, 事業者意識調査, 事業者ヒアリング等を実施
 2～3月 計画骨子原案検討 ⇒パブリックコメントまで残り1年を切っていた

【令和7年度】



○計画策定への着手や準備が遅れ、時間がない、計画に注力できる職員もいない、どうしよう...

○国の「地域気候変動適応計画策定マニュアル」に沿って検討していくにはリソースが足りない、どうしよう...

○計画策定後の実行が重要。職員が読み返す計画にするには、どうしたらいいんだろう...

○市民や市内の事業者に少しでも読んでいただき、行動のきっかけとなる計画にするには、どうしたらいいんだろう...

○これまでの計画では定性的な取組を記載していた適応策の目標設定を、今後はどうやって整理したらいいんだろう...



スケジュールに追われながら、日々悩みの連続

◆計画の一体化、掲載内容の圧縮

- ・地球温暖化対策実行計画区域施策編・事務事業編・地域気候変動適応計画を一つの計画として策定(計画名称を「気候変動アクションプログラム」へ変更)
- ・気候変動影響評価は「東京都気候変動適応計画」をベースとし実施

◆計画書のレイアウトの工夫

- ・計画書本体をPowerPoint形式で作成、会議用資料としてそのまま活用(A4縦⇒A4横)
- ・図表活用によるビジュアル化
- ・ページ数を絞り込み

◆市民に読んでいただくための更なる工夫

- ・調布市オリジナルの地球温暖化対策啓発キャラクター「ゴヤたん」を計画のナビゲーターとして活用
- ・計画を開いてもらうためにコラムを工夫、クイズを活用

◆目標の明確化

- ・施策ごとに成果指標と活動指標を設定
- ・取組項目ごとに担当課を明確化



気候変動のアレコレが3分でわかる 「教えて！完熟ゴヤたん」コラム集

目に見えないCO ₂ の排出量は、どうやってはかるの？	113
茅恒等式(かやこうとうしき)で、CO ₂ 削減策を考えてみよう	114
おうちを断熱化すると、なにが良いの？	115
家庭のエネルギーはどこで、どのくらい使われている？	116
家庭でできる“我慢しない” 省エネTips① ～照明・冷蔵庫～	117
家庭でできる“我慢しない” 省エネTips② ～エアコン～	118
事業者がゼロカーボンに取り組むと、どんなメリットがあるの？	119
太陽光パネルって、どうやってリサイクルするの？	120
再生可能エネルギーはどうしたら使えるの？	121
脱炭素に活用できる次世代技術ってどんなものがあるの？	122
ごみ処理場建替え期間中の影響(CO ₂ 排出量の増加)	123
熱中症対策で気をつけるべきことは？	124
覚えているかな？光合成～木とCO ₂ 吸収量の関係～	125

ボクたちがこの計画をナビゲートするよ！

プロフィール

身長:ゴーヤ1個分くらい
 体重:ゴーヤ1個分くらい
 名前の由来:
 平成30(2018)年度開催の「調布市環境フェア」で名前を募集して決定！
 仕事ぶり:
 市のホームページや広報紙「ゼロカーボンシティちょうふ」に頻繁に出現！地球温暖化問題の解決に向けて、ゴーヤ独自の視点で奮闘中。
 特技:
 疲れたらゴーヤのグリーンカーテンで涼み、体力と気力を回復できる。



調布市地球温暖化対策啓発キャラクター
ゴヤたん & 完熟ゴヤたん

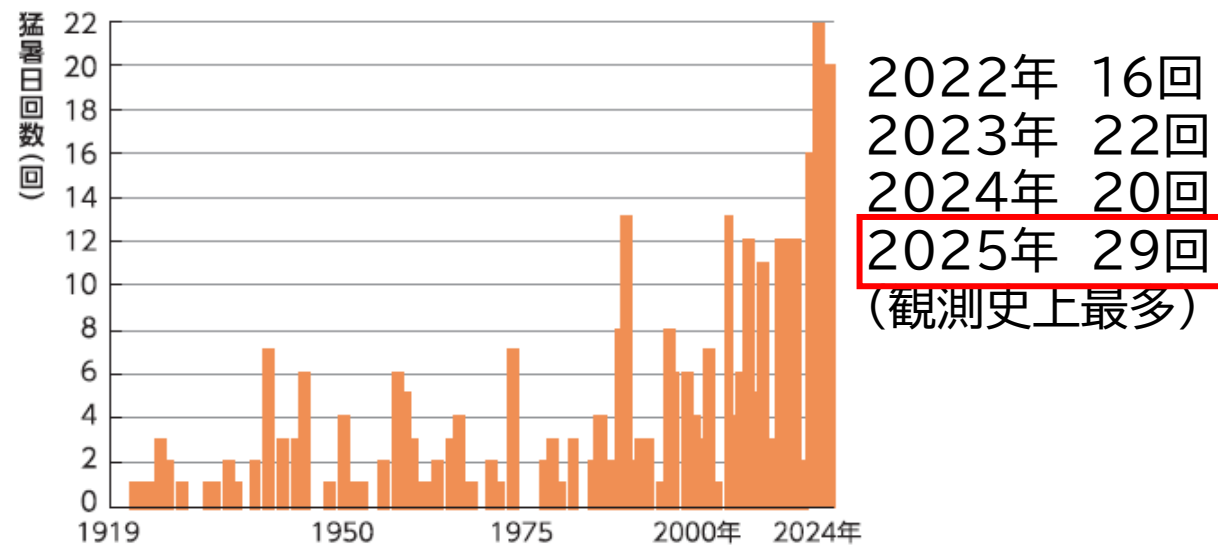
はあ～…
生き返るう～！



(1) 気候変動の影響①

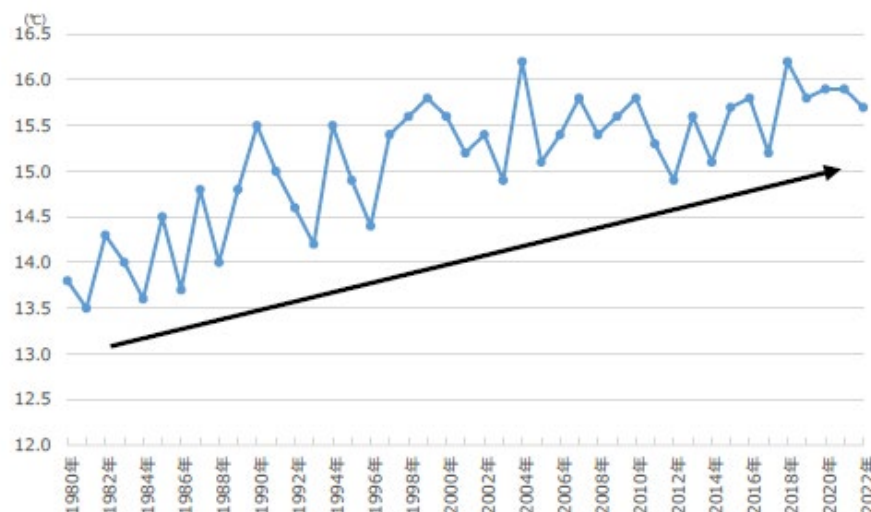
- 地球温暖化とは、人間の活動に伴い「温室効果ガス」が大気中に大量に放出され、地球全体の平均気温が急激に上昇する現象のことです。
- 地球温暖化が原因と言われている気候変動の影響は、「猛暑」として既に市民生活に及んでいます。
調布市から最も近い観測地点である府中の平均気温は、平年値(1991～2020年)は15.4℃で、1980年からの40年間で、およそ2℃上昇しています。また、2025年には、都内において猛暑日(最高気温35℃以上の日)の回数が、観測史上最多の29回を記録しました。
- 国連は、2024年は観測史上最も暑い年となり、世界全体の年平均気温が産業革命以前と比べて1.55℃上昇したと発表しました。
- 国の将来予測によると、地球温暖化に対して今後何も対策を行わなかった場合、世界全体の年平均気温は産業革命前よりも4℃上昇し、国内では20世紀末と比べ、21世紀末の年平均気温は約4.5℃上昇、猛暑日の年間日数も約17.5日増加することが予測されています。

■ 都内における猛暑日の回数の推移



出典:東京都「家庭の省エネハンドブック2025」

■ 府中観測地点(府中市幸町)での年平均気温の推移



出典:気象庁ホームページ(過去の気象データ検索)「府中(東京都) 年ごとの値」

■ 国内の気温の将来予測

	2℃上昇シナリオによる予測 パリ協定の2℃目標が達成された世界で生じ得る気候の状態	4℃上昇シナリオによる予測 追加的な緩和策を取らなかった世界で生じ得る気候の状態
年平均気温	約+1.4℃	約+4.5℃
【参考】世界の年平均気温※ (IPCC, 2021)	(約+1.1℃)	(約+3.7℃)
猛暑日の年間日数	約+2.9日	約+17.5日
熱帯夜の年間日数	約+8.2日	約+38.0日
冬日の年間日数	約-16.6日	約-46.2日

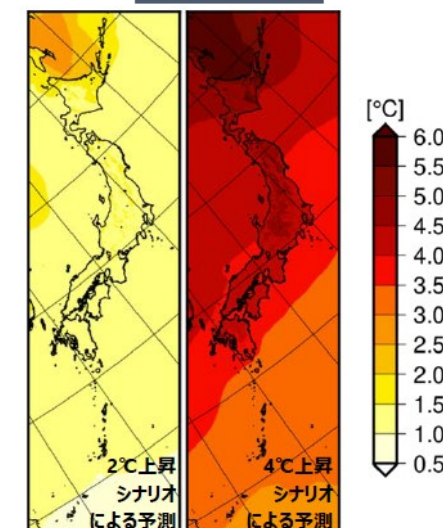
New !

100年に一回の高温の将来変化

- 工業化以前の気候での「100年に一回の高温」は、4℃上昇時の気候では100年に約99回発生すると予測。
- 一方で、4℃上昇時の気候での「100年に一回の高温」の温度は、工業化以前の気候での「100年に一回の高温」の温度と比べて約5.9℃上昇すると予測。



暑さに強いボクでもツライよ



出典:文部科学省・気象庁「日本の気候変動2025概要版」を基に作成

(1)気候変動の影響②

第1章

- 気候変動が進むことにより現在又は将来予測される影響として、熱中症による「健康」面への影響、「都市生活」や「経済活動」への影響、豪雨に伴う「自然災害」の増加、渇水など「水資源」への影響、高温による農作物の品質や動植物の生息域など「自然・生態系」への影響などが懸念されています。
- 調布市において現在から将来にかけて予測される主な気候変動の影響として、熱中症による死亡者数の更なる増加、高温に伴う屋外活動・イベントの縮小、雨の降り方の変化に伴う集中豪雨や渇水リスクの増加、生態系の分布域の変化、外来種の侵入や定着率の変化、気温上昇による作物の品質の低下などが挙げられます。

■ 気候変動による影響の例



出典：国立環境科学研究所『気候変動適応情報プラットフォーム』

分野は、東京都気候変動適応計画を参考にさせていただき、絞り込み

■ 調布市において現在又は将来予測される主な影響

分野	市において現在又は将来予測される主な影響
健康，都市生活， 経済活動	(健康，都市生活) ・高齢者を中心とする熱中症による救急搬送者数・死亡者数の更なる増加 ・屋外活動時の熱中症発生リスクの増加 ・屋外スポーツや屋外イベントができなくなるなど屋外活動の縮小 (経済活動) ・屋外労働が可能な時間帯の短縮リスク，熱中症対策の必要性の更なる増加
自然災害	・気候変動により激甚化，頻発化する豪雨による浸水リスクの増加 ・土砂災害の発生リスクの増加
水資源，水環境	・多摩川水系，荒川水系，地下水を水源とする水道の渇水リスクの増加
自然，生態系	・分布域の変化やライフサイクル等の変化 ・外来種の侵入や定着率の変化 ・気温上昇による作物の品質の低下，収穫時期の変化，病害虫の発生リスクの増加

いろんな分野で影響が出るんだね。どうすればいいのかな？



施策・取組の体系①

● 以下のCO₂排出削減目標の達成に向けて、5つの基本方針に紐づく以下の施策・取組を推進します。

	市域全体 ※R4(2022)実績は▲19.0%	市の事務事業 ※R6(2024)実績は▲34.6%
短期目標 令和12(2030)年度まで	基準年度比▲46%削減	基準年度比▲65%削減
中期目標 令和17(2035)年度まで	基準年度比▲64%削減	—
長期目標 令和32(2050)年度まで	CO ₂ 排出実質ゼロ ※基準年度は平成25(2013)年度	

将来像	このまちの安心を 次世代の「あたりまえ」に ～まちのチカラ みんなのチカラで ゼロカーボン～		
基本方針	基本施策	取組項目	成果指標
1 住宅・建築物の省エネルギー化の推進	1-1 住宅のエネルギー効率の向上	①エネルギー使用状況の見える化・分析の促進 【新規】 ②住宅の断熱性能の向上促進 ③省エネ性能の高い設備・機器の導入促進 ④環境にも人にもやさしい新築住宅の普及	民生家庭部門における 世帯当たりエネルギー消費量
	1-2 事業所等のエネルギー効率の向上	①中小規模の事業者への脱炭素経営の普及 【新規】 ②建築物の断熱性能の向上促進 ③省エネ性能の高い設備・機器の導入促進 ④環境にも人にもやさしい新築建築物の普及	民生業務部門における 延床面積当たりエネルギー消費量
	1-3 事務事業 公共施設のエネルギー効率の向上	①新築・増築時の脱炭素化の推進 ②施設や設備改修時の脱炭素化の推進 ③照明のLED化の推進 ④熱利用の脱炭素化の検討・推進 【新規】	公共施設のエネルギー消費量
	1-4 事務事業 市の事務事業における率先行動の推進	①公共施設のエネルギーマネジメントの推進 【新規】 ②市の事務事業で使用する車両の脱炭素化の推進	・公共施設のエネルギー消費量（再掲） ・庁用車のCO ₂ 排出量
2 再生可能エネルギーの導入拡大	2-1 住宅・事業所等における再エネの導入拡大	①太陽光発電設備・蓄電池等の設置促進 ②再エネ100%電力の導入促進 ③太陽光以外の再エネの導入可能性の検討	市域に設置した太陽光発電の設備容量 ※公共施設に設置したものを含む
	2-2 事務事業 公共施設における再エネの導入拡大	①太陽光発電設備・蓄電池等の設置拡大 ②次世代型太陽電池の活用を検討・推進 【新規】 ③再エネ100%電力の導入拡大	公共施設において再エネ由来の電力に切り替えた電力使用量の割合

基本方針	基本施策	取組項目	成果指標
3 地域でのエネルギー・資源の有効利用と循環の推進	3-1 地域でのエネルギーの有効利用の推進	①地域内のエネルギーマネジメントの検討・推進 【新規】 ②地域でのエネルギーの有効利用の検討・推進 【新規】 ③新技術の導入可能性の検討・推進	エネルギーの有効利用に向け連携する市民・事業者の件数
	3-2 交通機関の脱炭素化の推進	①環境に配慮した自動車利用の促進 ②環境に配慮した移動手段の充実 ③道路空間の脱炭素化の推進	運輸部門のCO ₂ 排出量
	3-3 資源循環による脱炭素化の推進	①ごみの発生・排出抑制の促進 ②分別の徹底による資源化の促進 ③プラスチック類の更なる資源化の検討	廃棄物部門のCO ₂ 排出量
4 気候変動への適応策の推進	4-1 水害対策の推進	①雨水の流出抑制 ②雨水の円滑な排水 ③水害時の安全の確保	浸透施設等の設置による雨水の浸透能力
	4-2 熱中症・ヒートアイランド対策の推進	①熱中症予防・対処方法の普及啓発 ②室内における熱中症対策の促進 ③職場や屋外活動時の熱中症対策の促進 ④ヒートアイランド対策の推進	人口に占める熱中症救急搬送者数の割合
	4-3 自然環境に対する適応策の推進	①水と緑の保全・再生 ②生物多様性の保全・回復 ③持続可能な農業生産の促進	みどり率
5 ゼロカーボンに向けて行動する地域のつながりの創出	5-1 市民・事業者など多様な主体との連携推進	①ゼロカーボンでつながる場の創出 【新規】 ②ゼロカーボンアクションの積極的な広報 ③ゼロカーボンに向けた取組の共同実施 【新規】 ④環境学習・環境教育の推進	ゼロカーボンに関するイベント・プロジェクトへの参加者・登録者数

施策4－1 水害対策の推進①

指標や主な取組は、各分野の個別計画との整合性を重視
※同時期に「雨水管理総合計画」を下水道課で策定

基本方針	4. 気候変動への適応策の推進
施策	4－1 水害対策の推進

＜施策の方向＞

令和元(2019)年東日本台風(台風第19号)により市内でも大きな浸水被害が発生するなど、気候変動により激甚化・頻発化する豪雨による浸水リスクが増大しています。
浸水被害の軽減に向け、市は、調布市雨水管理総合計画を策定し、雨水の流出抑制や円滑な排水に係る対策を進めるとともに、浸水時の安全確保に向け、浸水リスク情報の周知や避難体制の強化を進めます。

成果指標	指標名	基準値	現状値	目標値 令和12(2030)年度	目標値 令和17(2035)年度
	浸透施設等の設置による雨水の浸透能力		134,074m ³ /h (令和6年度)	180,129m ³ /h	191,549 m ³ /h
活動指標	雨水タンク・雨水浸透ますの補助事業の利用件数		6件 (令和7年度)	年平均10件以上	

＜雨水タンク・雨水浸透ますのイメージ図と市の助成事業概要＞



雨水タンクを設置することで、屋根に降った雨水を一時的に貯留することで植木の水やりや、災害時の雨水の利用が可能に



雨水浸透ますを設置することで、雨水を地下に戻し、浸水被害軽減・地下水の涵養・湧水の復活が可能に



雨水を地下にもどしてあげるんだね。



●雨水タンクは補助対象経費の1/2を補助

雨水タンクの設置補助



<https://www.city.chofu.lg.jp/070010/p039289.html>

●雨水浸透ますは無料で設置
(雨どいに近く、1m²程度の広さがあることなどの条件があります)

雨水浸透ますの無料設置



<https://www.city.chofu.lg.jp/070010/p039000.html>

施策4-1 水害対策の推進②

主な取組

①雨水の流出抑制

- 雨水タンク・雨水浸透ます等の設置による雨水利用の促進
- 透水性舗装や雨水貯留施設設置など道路・公園・公共施設等の透水性・浸透性の強化
- 緑地や農地など自然が有する機能を活かしたグリーンインフラの雨水貯留浸透施設としての活用
- 農地や緑地の保全

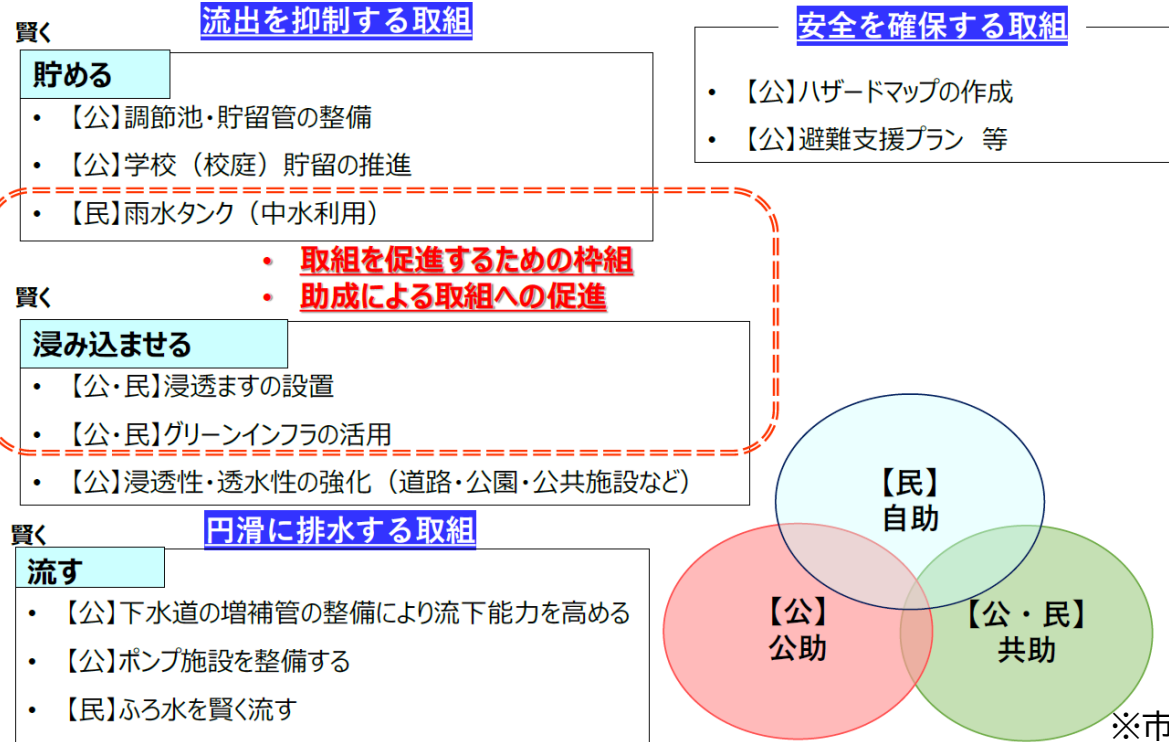
②雨水の円滑な排水

- 下水道の流下能力向上に向けた整備
- ポンプ施設の整備
- 大雨の時は風呂水を流さないなど大量の水を流さない工夫に関する注意喚起

③浸水時の安全の確保

- 洪水・土砂災害ハザードマップ, 想定浸水深板などによる水害リスク情報の周知
- 調布市河川情報ポータルサイトなど降雨・水位に関する情報の周知
- 避難訓練の実施等による避難体制の強化

<調布市雨水管理総合計画(案)(令和7年度策定予定)の概要>

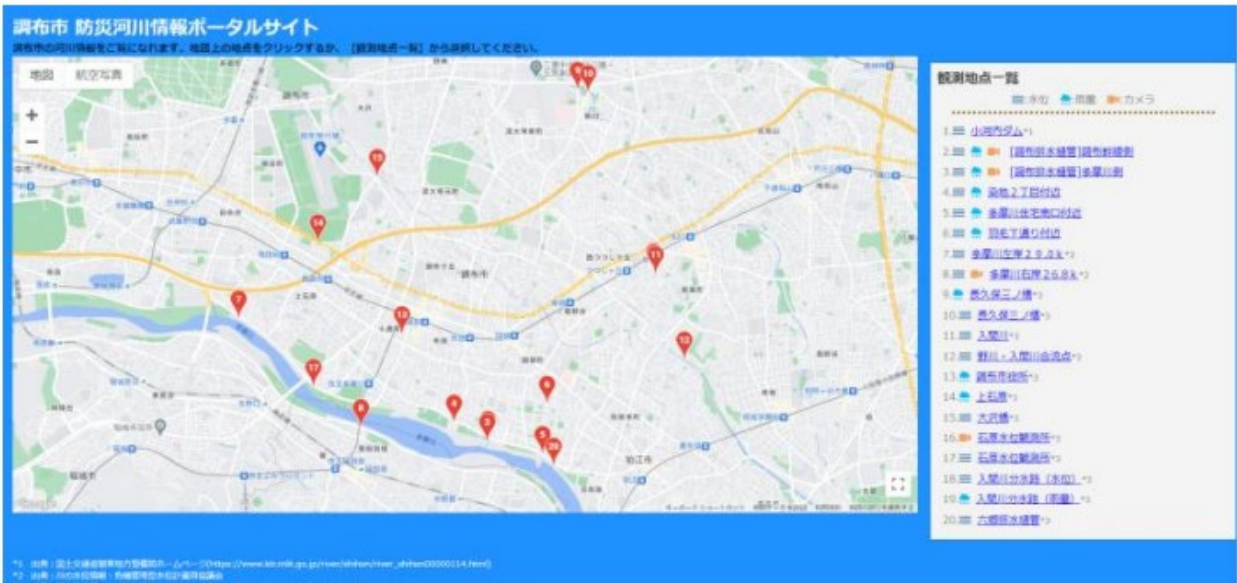


市民・事業者特に期待する取組

- 雨水タンク, 雨水浸透ますの設置
- 土のう, 水のう, 止水板等の準備
- 洪水・土砂災害ハザードマップ等により, 災害リスクを把握
- 避難訓練への参加
- 大雨の時に, 降雨情報や河川等の水位情報を把握
- 大雨の時に, 風呂水など大量の水を流さない



<調布市河川情報ポータルサイト> <https://chofu.bousai-bec.jp>



※市内の水路の水位情報や監視カメラによる画像情報, 国や都が管理する河川情報等のリンクを掲載



施策4-2 熱中症・ヒートアイランド対策の推進①

成果指標は、課長職以下で構成する庁内部会（気候変動適応部会）で議論し設定
※防災セクションから提案のあった、消防庁のデータを活用

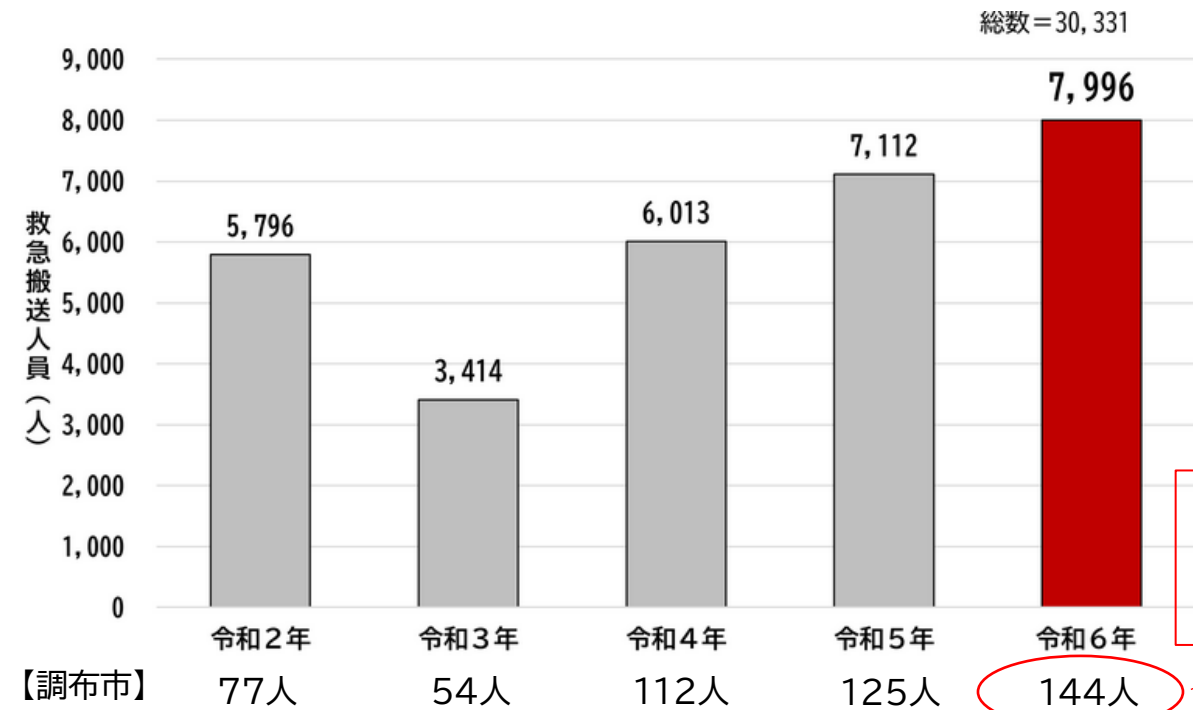
基本方針	4. 気候変動への適応策の推進
施策	4-2 熱中症・ヒートアイランド対策の推進

＜施策の方向＞

気候変動の影響により、熱中症による死者数は市内でも増加傾向が続いており、また、今後、地球温暖化が進行すれば、既に市民生活に影響が及んでいる猛暑日の日数や、極端な高温の発生リスクが今後増加していくことが予測されています。
市は、熱中症による人命や健康に係る被害を減らすため、熱中症予防に向けた対策や、まちなかの暑さを和らげるヒートアイランド対策を推進します。

成果指標	指標名	基準値・現状値	目標値 令和12(2030)年度	目標値 令和17(2035)年度
	人口に占める熱中症救急搬送者数の割合	0.1%(令和6年度)	0.1%以内	
活動指標	クーリングシェルター指定施設数	36施設(令和6年度)	60施設以上	80施設以上
	省エネ導入補助事業の利用件数累計(断熱化)	81件(令和6年度) ※令和5年度から開始	800件	1,400件

＜都内及び市内の熱中症による救急搬送者人数(6～9月)の推移＞

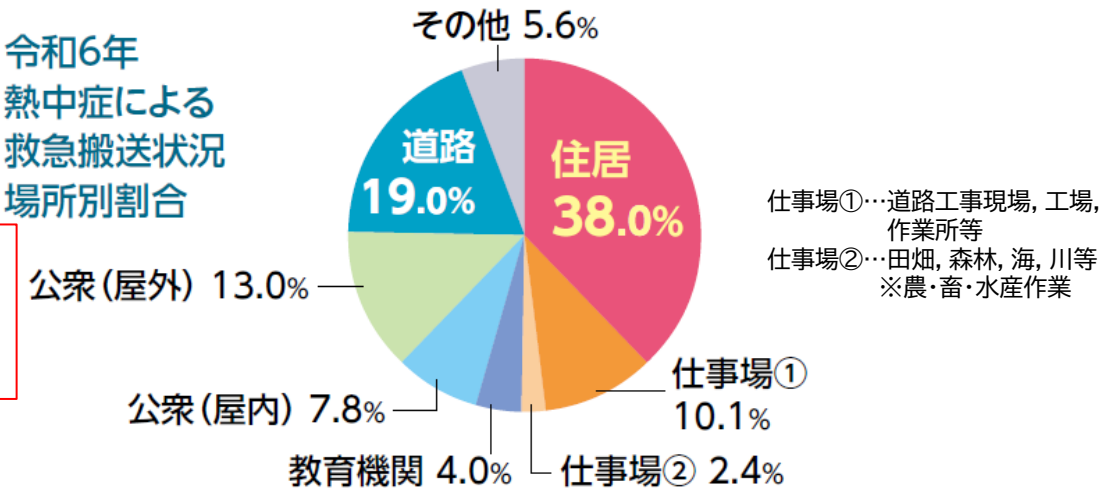


65歳以上が5割超(78人)うち約9割(67人)が75歳以上

＜熱中症が起こりやすい場所＞

屋外よりも、屋内で多く起こります。

高齢者は、家のなかで熱中症になることが最も多い



※令和7年の都内の救急搬送人数(6～9月)の速報値は9,203人

出典:総務省「令和6年(5月～9月)の熱中症による救急搬送状況」

施策4-2 熱中症・ヒートアイランド対策の推進②

主な取組

①熱中症予防・対処方法の普及啓発

- エアコンの利用, 日傘の活用など熱中症予防アクションの促進
- 民間企業等と連携した, 熱中症予防・対処方法に関する普及啓発

②室内における熱中症対策の促進

- 住宅や建物の断熱化, 遮熱性塗装・窓の外への日よけやグリーンカーテン等の設置による遮熱化の促進
- 省エネルギー化等による排熱の緩和の促進

③職場や屋外活動時の熱中症対策の促進

- 職場における熱中症予防対策の促進
- イベントや運動時の熱中症予防に関する更なる注意喚起
- マイボトル用給水機など市内の給水スポットの周知
- 民間施設との連携も含めた「クーリングシェルター」の拡充

④ヒートアイランド対策の推進

- 路面の遮熱化の検討, 推進
- 屋上緑化, 壁面緑化, 街路樹等による地表面の緑化の推進

<都市部の気温上昇(ヒートアイランド現象)を和らげるためのまち全体における対策の考え方>

○エネルギーの使用を抑えて

熱を **ださない**

○緑や水, 対策技術を活用し, 建物表面や地面を改善して

熱を **ためない**

あわせて,

○日除けやドライ型(微細)ミストを利用するなど,

人が熱を **もらわない**

ことによって, 人への影響を軽減することが必要です。

出典:東京都環境局「夏の暑さ対策の手引き」



P.124「熱中症対策で気をつけるべきことは？」コラムも読んでみてね。



市民に特に期待する取組

- エアコンなどを上手に使うって室温を調整
- こまめな水分補給
- 外出時は, 日傘や帽子を利用, マイボトル(水筒)の持参
- 暑さをしのぐため, クーリングシェルターを活用
- 住宅の玄関ドア・窓などの断熱化改修, 遮熱化の実施
- 高齢者等の体調の変化への気づきや声かけ

事業者特に期待する取組

- 建物の断熱化・遮熱化, 屋上・壁面緑化の実施
- 従業員に対する熱中症予防対策の推進
- クーリングシェルター指定など熱中症予防に向けた市との連携

クーリングシェルター

クーリングシェルターとは, 熱中症予防のため, 自治体が指定し, 熱中症特別警戒アラート発表時に, 誰でも無料で利用できる空調設備のある施設のことです。

市内では, アラートの発表の有無に関わらず, 一時的な休憩場所として, クーリングシェルターをご利用いただけます。

令和7(2025)年12月時点で, 36施設(公共施設33施設, 民間施設3施設)を指定しており, 今後も民間施設へご協力を呼びかけ, 拡大を進めていきます。



クーリングシェルター指定施設の目印(のぼり旗, マーク)

施策4－3 自然環境に対する適応策の推進①

基本方針	4. 気候変動への適応策の推進
施策	4－3 自然環境に対する適応策の推進

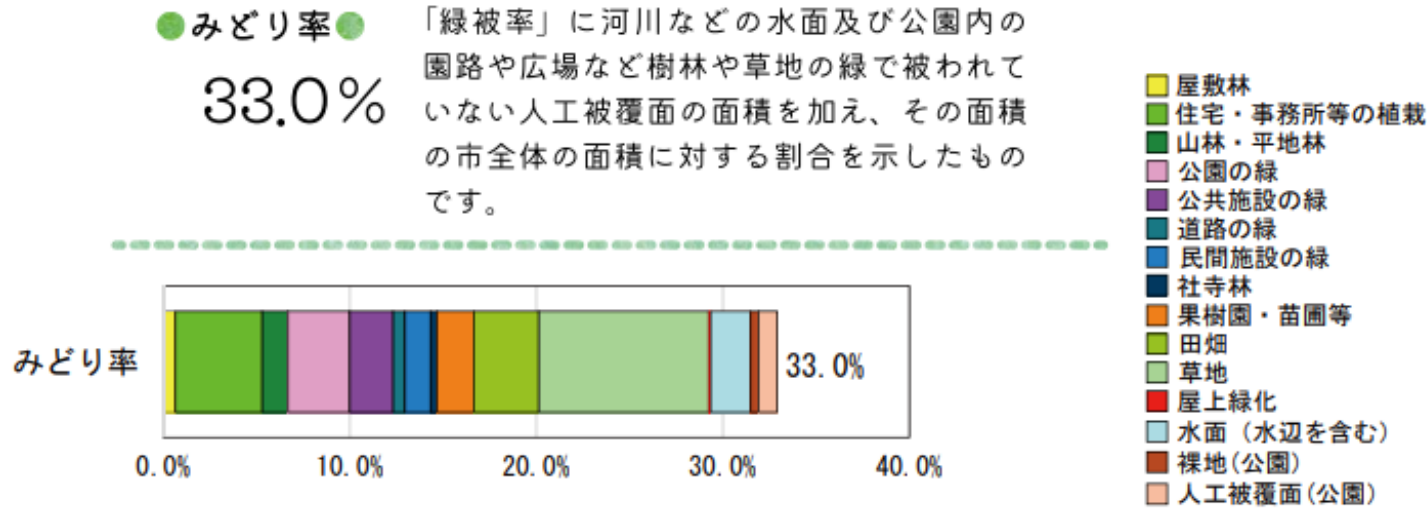
指標や主な取組は、各分野の個別計画との整合性を重視
※並行して策定していた「環境基本計画」と整合

< 施策の方向 >

気候変動は、水資源・水環境の変化、自然生態系の分布域の変化、外来種の侵入、作物の品質の低下や収穫時期の変化など、水資源・水環境・自然生態系・農業分野への影響を及ぼしつつあります。
市は、気候変動への適応策としても、水と緑の保全・再生や、生物多様性の保全と向上、持続可能な農業生産の促進に取り組めます。

成果指標	指標名	基準値・現状値	目標値 令和12(2030)年度	目標値 令和17(2035)年度
	みどり率	33.0% (令和6年度)	34.1%	
活動指標	公共が保全する緑の面積	152.63ha (令和6年度)	163ha (令和22年度)	
	市民と協働で保全活動を行う崖線の箇所数	8箇所 (令和6年度)	10箇所 (令和22年度)	
	自然環境調査の実施回数(累計)	49回 (令和6年度)	63回 (令和8～令和17年度の累計)	
	協働による外来生物の駆除活動や防除事業の参加・実施人数(累計)	93人 (令和6年度)	1,000人 (令和8～令和17年度の累計)	

< みどり率の現状(令和6年度) >



出典：調布市「令和6年度調布市みどり率調査【概要版】」

分野	市において現在又は将来予測される主な影響
水資源, 水環境	・多摩川水系, 荒川水系, 地下水を水源とする水道の渇水リスクの増加
自然生態系	・分布域の変化やライフサイクル等の変化 ・外来種の侵入や定着率の変化
農業	・気温上昇による作物の品質の低下, 収穫時期の変化, 病害虫の発生リスクの増加

施策4-3 自然環境に対する適応策の推進②

主な取組

①水と緑の保全・再生【水環境・水資源、緑環境分野の適応策】

- 雨水利用と雨水浸透の推進, 湧水調査の実施, 節水と適正な排水の推進, 開発事業等における地下水脈への配慮促進による, 水の保全・再生
- 崖線緑地の保全活動と活動団体の支援, 社寺林・屋敷林の保全と支援, 都市農地の保全, 協働による緑保全の仕組みと活用, 雑木林を担う人材の育成と活用による, 緑の保全・創出
- 深大寺・佐須地域における里山風景の保全と活用, 都市農地の保全, 湧水・河川等の水辺環境の保全, 社寺・史跡・旧跡と自然環境の調和の維持による, 水辺と緑がおりなす伝統的な風景の保全・活用

②生物多様性の保全・回復【自然生態系分野の適応策】

- 専門知識を活用した調査の定期的な実施, 市民による調査の仕組みづくりと推進, 崖線緑地における重点モニタリングの実施による, 生きものの生息・生育状況の把握
- 生き物の生育状況の公開による生物多様性保全意識の醸成, 生物多様性地域戦略の策定・更新に向けた評価指標の整備による, 生物多様性の保全
- 外来生物の監視・情報提供とリスク周知, 特定外来生物の現場駆除と関係者連携の強化, 外来生物に関する啓発の実施による, 外来生物対策の促進

③持続可能な農業生産の促進【農業分野の適応策】

- 病虫害等からの被害を未然に防ぐための資材の支援や防除に関する情報提供
- 国・都等からの紹介による病虫害等からの被害を未然に防ぐための資材の支援や防除に関する国・都等と連携した情報提供
- 農家への環境保全型農業の推進に関する情報提供



深大寺・佐須地域の農の風景

市民・事業者特に期待する取組

- 雨水浸透ますの設置
- 緑や自然環境の保全活動や農業体験への参加
- 屋上・壁面の緑化
- 多摩川自然情報館のイベントなど, 環境イベントへの参加

いろいろな環境学習イベントをやっているから, 参加してみてね。



調布市での取組

■多摩川自然情報館イベント

多摩川を中心とした市内の自然環境を紹介する多摩川自然情報館で, 多摩川や調布の環境について学べる環境学習イベントを実施しています。



環境学習イベントの様子

■多摩川河川敷における特定外来生物の駆除活動

市内の多摩川河川敷では, 地域固有の生態系へ被害を及ぼす恐れのある特定外来生物に指定されているアレチウリ・オオキンケイギク等が確認されています。このため, 市では, 一般社団法人生物多様性保全協会主催で, 市民・企業とともに駆除活動を進めています。



駆除活動の様子



熱中症特別警戒アラート

過去に例のない危険な暑さ(都内全ての観測地点で翌日の最高暑さ指数が35以上)と予測される場合、前日の午後2時に環境大臣が発表します。※アラート発表時の市の対応は4面を参照



環境省熱中症
予防情報サイト

暑さ指数とは 熱中症の危険度を示す指標。気温だけでなく、湿度・日射・風などを踏まえ算出。暑さ指数は環境省熱中症予防情報サイトでご確認ください。

暑さ指数	35以上	熱中症 特別警戒 アラート
	33以上	熱中症 警戒 アラート

■日常生活における暑さ指数の指針と対策

暑さ指数 31以上	危険	高齢者は安静にしても発症リスクが高いため、極力外出を避けて涼しい室内に移動する
28以上31未満	厳重警戒	外出する際は炎天下を避けて、室内では室温が上がらないように気をつける
25以上28未満	警戒	運動や激しい作業をする場合は、定期的に十分な休息を取り入れる
25未満	注意	激しい運動や重労働は発症リスクが上がるため注意する

熱中症かなと思ったら

立ちくらみ、めまい、足がつるなど少しでも体調に異変を感じたら、涼しい場所へ移動し衣類を緩め体を冷やしましょう。

首筋や脇の下、太ももの付け根など、太い血管のある部分に冷えたペットボトルや保冷剤をあてると効果的です。一緒に水分・塩分補給を忘れずに。

意識が朦朧とする場合はすぐに救急車を呼びましょう。



熱中症は呼び掛けあうことが大切

一人ひとりが周囲の人に気を配り、熱中症の予防を呼び掛け合うことで、発生を防ぐことができます。

高齢者は暑さや喉の渇きに対する感覚が鈍くなるため、気づかないうちに熱中症になっている危険性もあります。

気になる方を見かけたら、市役所やお近くの地域包括支援センターへご連絡ください。



近ごろの夏は、35℃以上の猛暑日をとおりこして、40℃以上の酷暑日という言葉も使われるようになったね。

暑さに強いボクらでもツライね💧

そうだね。実が小さいうちに変色してしまう、ゴーヤの高温障害には気をつけて育ててほしいね。ゴーヤも大変だけど、人間も熱中症という症状に注意が必要なのは知っているかな？

熱中症ってどんな症状なの？

めまいや立ちくらみ、頭痛や吐き気、大量の汗やこむら返りなどの症状がでたら要注意だよ！

症状が出たらどうすればいいのかな？

まずは涼しい場所へ移動し、衣服をゆるめてね。次に、首やわきの下、太もものつけ根を冷やして、水分や塩分補給をしてね。様子を見て受け答えがおかしい場合や、自分で水分がとれない場合は、すぐに救急車をよぶんだよ。

熱中症は気温にだけ注意すればいいのかな？

熱中症予防を目的とした「暑さ指数」という数値に注目してみてね。環境省のホームページで確認ができるよ。この暑さ指数が33以上の時にでられるのが「熱中症警戒アラート」で、いつも以上に警戒が必要だよ。

ボクは熱中症対策で、ついに日傘デビューしたんだ。思った以上に快適でびっくりしたよ。

クイズで知ろう ゼロカーボン ～完熟ゴヤたんに挑戦！～



～ビギナー編～ ○×問題

ほんとうにビギナー編なの…？



Q1:令和4(2022)年の世界CO₂排出量について、日本は世界で3番目である。
※本編P.12をみてね。

Q2:平成27(2015)年のCOP21「パリ協定」において、世界の平均気温上昇を産業革命前に比べて1.5℃以内に抑える努力を追求することを合意した。
※本編P.12をみてね。

Q3:令和3(2021)年に市と市議会の共同で、令和32(2050)年までにCO₂排出量を実質ゼロにするゼロカーボンシティ調布を目指すことを宣言した。
※本編P.22をみてね。

Q4:令和4(2022)年度の市内の温室効果ガス排出量のうち、CO₂排出量の割合は約5割を占める。
※本編P.37をみてね。

Q5:調布市では、熱中症警戒アラートや特別警戒アラート発表時に、クーリングシェルター(涼みどころ)を、暑さをしのぐ一時的な休憩場所として利用できる。
※本編P.102をみてね。

～マスター編～ 穴埋め問題

ム…ムズカシイ…
ゼロカーボンの道は険しいなあ



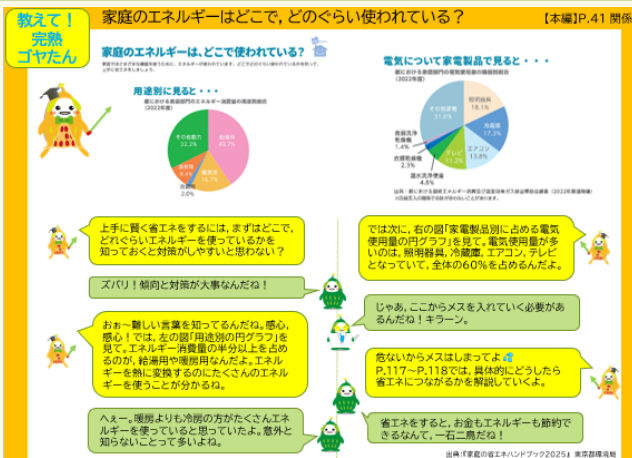
Q6:気候変動対策は、温室効果ガスを削減する「□□策」と、気候変動に対処し被害を少なくする「□□策」の2つに分けられる。
※本編P.11をみてね。

Q7:令和4(2022)年度の市内CO₂排出量のうち、住宅やビルなどから排出される割合は約□割を占める。
※本編P.38をみてね。

Q8:市内の太陽光発電の設置実績は、導入ポテンシャルの約□%の水準にある。
※本編P.48をみてね。

Q9:住宅や建物のエネルギー効率を高めるためには、省エネ性能の高い設備・機器の導入のほか、窓やドア等の□□性能を向上させる方法がある。
※本編P.82をみてね。

Q10:日照量が確保できる場合、4kWの太陽光パネル設置により、一般家庭の平均的な年間電力消費量の約□割程度の発電量が期待できる。
※本編P.90をみてね。



完熟ゴヤたんのセルフプロモーション



気候変動に興味を持ってくれた、そのキミへ朗報があるよ！！
本編のP.113～P.125に「教えて！完熟ゴヤたん」のコーナーがあって、ボクが気候変動のアレコレについて解説しているんだ。
よかったらグッドボタンをおしてほしい気持ちだよ



高評価・チャンネル登録はできないけど、ぜひみんなに読んでほしいなあ。



計画策定に向けたワークショップの結果概要

(1)ワークショップの開催概要

名称	次期環境基本計画・地球温暖化対策実行計画 策定に向けたワークショップ		アナタの声で未来が変わる！ 学生向け環境未来 ワークショップ
	第1回	第2回	
日時	令和7（2025）年6月15日(日) 14:00～16:00	令和7(2025)年9月7日(日) 14:00～16:00	令和7(2025)年9月13日(土) 14:00～16:00
場所	調布市教育会館 301～303研修室	調布市教育会館 301～303研修室	オンライン (Zoom)
参加	市民20名	市民18名	学生5名
目的	調布市の環境の「良いところ／改善すべきところ」を話し合い、今後の方向性と具体的取組アイデアを把握	調布市の環境をより良くする具体的な取組と水平展開のアイデアを把握	次期環境基本計画に向け、将来を担う若い世代(大学生・高校生)の意見・アイデアを募集

4. 計画策定に向けたワークショップの結果概要

(2) 市民ワークショップ第1回の結果概要

●「調布市の環境の良いところ・改善したいところ」の全グループの意見要約

分野	意見
1. 脱炭素社会	● 駅近の施設が多く、車がなくても暮らしやすい ● 太陽光発電について、少ない初期投資で導入する方法や信頼できる業者や製品、リサイクルの情報を知りたい ● 駅前広場など都市部で緑を増やし、雨水浸透とヒートアイランドを緩和してほしい ● 落ち葉やバイオ炭で炭素を土壌固定してほしい ● 公共施設・団地改修時に脱炭素モデルを示してほしい ● ゼロカーボン目標の進捗を可視化し周知してほしい ● 大型SUV増加やプラスチックごみを抑制してほしい
2. 循環型社会	● ごみの個別回収や小型家電回収ボックスが便利 ● コンポストを使うと臭いもなくごみが土に戻る体験が好評 ● 生ごみ・落ち葉の堆肥化やコンポスト設置を市全体で推進してほしい ● ペットボトル削減とマイボトル給水スポットを増やしてほしい ● フードドライブの推進と不用品寄付の仕組みを作してほしい ● 人工芝からのマイクロプラスチック流出を防いでほしい ● 海ごみ・河川ごみ問題を学ぶ講座や清掃活動を開催してほしい ● ごみ分別徹底とカラス被害対策を強化してほしい ● 雨水浸透舗装で都市型水害を減らしてほしい ● 自然素材(備長炭等)による飲料水浄化を推進してほしい
3. 水と緑・生き物	● 多摩川・野川など水辺が近く、生物多様性が高い ● 深大寺の森や里山の景観が残り、景観に癒しを感じる住民が多い ● 団地間緑地や樹林保全の仕組みが機能している ● 既存のみどりを保全してほしい ● 学校・公共施設で落葉樹を積極的に植えてほしい ● 農地・田んぼを保全し都市農業を支援してほしい ● 公園や市有地を雑木林化し生物多様性を高めてほしい ● 子どもの自然体験など環境教育を充実してほしい ● 多摩川に自然な岸辺を整備してほしい ● 樹木評価ツール(i-Tree)で価値を可視化してほしい ● 水質改善と農薬削減で安全な水環境を確保してほしい
4. 周辺の生活環境	● 都心に近い割に田畑や公園など緑が多い ● 高層ビルが少なくビル風が起きにくい ● 駅前や住宅地で緑・公園が不足しているので増やしてほしい ● 都市化で農業がしづらくなっている一方、農地・水田を守ってほしいという声がある ● PFAS 等有害物質のリスクと対策を分かりやすく発信してほしい ● 道路計画や建物高さが日照・環境に配慮されていない ● 地域猫を守ってほしい ● 専門知識を持つ行政職員・体制を強化してほしい ● 公共空間を活用したフリーマーケット等を増やしてほしい

5. 連携・環境活動	● 環境関連イベントが多く、子どもの参加も盛んである ● 農地保全に取り組む団体が存在 ● 「自然は楽しい」と感じられる仕組みづくりへの期待 ● 市の環境施策・イベントの情報発信を強化してほしい ● 大人や若者が参加しやすい自然・緑イベントを増やしてほしい ● 年間を通じた環境講座やエコスクールを充実してほしい ● 市役所内の縦割りを解消してほしい ● 環境に関心の低い層・自治会へのアプローチを強化してほしい ● 農家を支援してほしい ● 多様な人々とコミュニケーションができる場がほしい
------------	--



グループ討議



グループ討議

(3)市民ワークショップ第2回の結果概要

●「調布市の環境をより良くするための具体的なアイデア」の全グループの意見要約

分野	意見
1. 脱炭素社会	- 断熱・省エネ(窓の断熱・二重窓, 家電の高効率化／耐用年数での計画的更新, エアコンクリーニング補助) - 太陽光の導入促進(住宅・駐車場・商業ビルへの積極導入, 容量規定, 公共施設のZEB化)と維持・撤去費用などの情報周知 - 自動車に依存しないまちづくり(自転車道, ミニバス)
2. 循環型社会	- 修理・リユースの促進(不用品の交換・リユース仕組み, 修理可能設計・パッキン交換) - エンカル消費・容器の選択肢(ビンの再評価, 水筒持参, 駅周辺の給水機) - 資源分別の徹底(ポスター掲示, 分別ルール of 周知) - 生ごみ対策(家庭での水切りの徹底, コンポスト, 落ち葉の活用, 堆肥を農家へ循環するモデルの展開)
3. 水と緑・生き物	- 生物多様性保全戦略の策定 - 公園の草をグリーンベルトとして管理／畑オーナー制度の導入(農体験・収穫シェア) - 駅前など日常空間の緑化(緑が感じられる動線づくり, 暑熱対策) - レインガーデン・雨水浸透の推進(ヒートアイランド緩和) - 緑化インセンティブ(住宅の緑被率で税軽減, 木を切ったら植えるルール, 樹木の番号付与・担当制度)
4. 周辺の生活環境	- 自然素材を用いた清掃の普及(重曹・クエン酸の掃除講座) - 地域景観・情報の見える化(木を伐る際の現地掲示, 地域掲示板・メッセージボードの整備, 回覧板の復活と活用)
5. 連携・環境活動	- 行政の方針提示(良好な環境像の明確化) - 学校・活動団体・自治会の連携(意見交換会, クラブ活動や町内清掃との接続) - イベントと広報の強化(市報・SNS・夏休み特集, 若者向け発信) - 情報発信の制約緩和(学校へのイベント情報共有の仕組み改善) - 実務的な連絡会の設置
その他	- SAF等につながる回収油の拡大, 草マルチの推進 - 情報交換プラットフォームの整備 - 大人が気軽に立ち寄れる「環境スナック」的な場の設置, FC東京等との協働イベントの糸口 - 調布飛行場の縁を活かした伊豆諸島との提携検討

●「参加を拡大するアイデア」の全グループの意見要約

分野	意見
1. 一般向け	- 出張講座(自然遺産・技術系) - 夜間の「環境大学」講座 - 分別イベント - 視覚的でインパクトある情報提供 - 現場体験の機会づくり - 環境インフルエンサーの活用 - 自治会やLINEを通じたポイントを絞った情報流通 - 大人が“ふらっと行ける”居場所や音楽×森などの参加しやすい企画
2. 若者向け	- エコ製品の“トレンド化”(デザイン・可愛い/カッコいいの訴求) - SNSでの発信強化 - 大学での単位化 - スポーツクラブ(例:FC東京)とのコラボ - 動画制作・企画参画の機会づくり
3. 子ども向け	- 涼しい空間での学び場づくり - 子ども向けエコツアーリズム - 学校カリキュラムへの活動導入・受入費用の拡充 - 園でのリボベジやエコ素材の制作 - 教育要領・保育指針への反映 - リサイクルセンター見学の教育活用 - 給食残渣処理の見学 - 体験中心の学習会 - 学校・学童・児童館でのごみ拾い - 社会貢献活動の証明(進学・就職等の加点要素)や職業体験の仕組みづくり



グループ討議



グループ討議

計画策定に向けたワークショップの結果概要

(4) 学生ワークショップの結果概要

●「調布市の環境の良いところ・改善したいところ」についての意見

分野	意見
1. 景観・緑	- 自宅マンションの前にあった森が最近伐採され、景観が悪化した。 - 木が伐採されたり森がなくなったりする。 - 調布市には金属製の家が多いと感じる。 - 神代農場以外はあまり調布駅周辺に行かないが、調布駅周辺にもっと木を増やしてほしいと感じる。
2. 交通・都市構造	調布市は京王線で東西の交通は整っているが、南北の路線が不足していると感じる。真ん中がないと感じており、南北をつなぐ交通網が将来イメージの中に描かれると嬉しい。

●「将来の調布市における理想の姿・改善アイデア」についての意見

分野	意見
1. 景観・建物	- 木材を組み込んだ建築物が増えれば、植物の量が増え、景観も良くなる。鉄の硬さを持つ木材などの活用も考えられる。 - 森を増やし、伐採を減らすことで景観を守りたい。 - 伐採された木材については再利用を考えるべきであり、ショッピングモールで建物の一部に木材が装飾として使われている事例を参考にできる
2. 交通	- 交通弱者対策として、バスやタクシーだけでなく、LRT(路面電車)やBRT(バス高速輸送システム)を電気や蓄電池で運行することで環境負荷を低減できる。 - バス運転手不足(2025年問題)を考慮し、連節バスのような、バスを2台つなげて専用道を、走り駅まで乗り入れるシステムを検討する。
3. 食料生産・住居	- 食料自給率を上げるために、家庭内でも野菜を作る必要がある。 - 普通の住宅の隣に畑があり、入居者が必ず畑を耕すことを義務付けるような「農業住宅」の仕組みを提案する。農業住宅を保護区の中に作り、入居者でコミュニティを作り、情報を発信していくことも考えられる。

●「高校生でも参加したくなる環境イベントなどのアイデア」についての意見

分野	意見
1. 他分野との組み合わせ（環境プラスアルファ）	- 環境問題に焦点を当てるだけでなく、環境問題と何かを掛け合わせたイベント(例: 音楽フェス)を開催し、誰もが親しみやすく参加のハードルを下げる工夫が必要。 - 環境と防災を組み合わせたイベント(非常用電源やポータブルソーラーパネルの啓発活動など)を実施する。 - 音楽イベントと組み合わせるなら、音楽フェスの後に会場を清掃するイベントを組み合わせるのが良い。 - 地域のグルメと環境、食べ歩きイベントなど、別の分野と組み合わせる仕掛けも必要かもしれない。
2. ゲーミフィケーション・インセンティブ	- 環境イベントの景品はごみになる可能性があるため、景品ではなくスマホのポイントのような仕組みが良い。地域通貨のように、イベントに参加するとポイントが貯まり、市内で使えるシステムが楽しい。 - 友達を招待するとポイントがもらえる仕組みや、招待した側がたくさんポイントがもらえる仕組みがあれば、参加者が増えるのではないかな。 - ごみ拾いクリーン活動で競争形式を取り入れ、たくさんごみを拾った人が表彰され、お菓子などがもらえる仕組みが良い。若い人や小学生は対戦が好きなので、競争形式とプレゼントの組み合わせが効果的。
3. 体験型・ターゲット層の限定	- ごみを拾うところからアクセサリーを作るまでを一貫して自分でやるイベントがあれば、忘れない体験になる(マイクロプラスチックを使ったペン作りなど)。気に入ったごみを見つけてくることも含めての体験が重要。 - 若い世代だけのイベントなら参加のハードルが下がる。お祭り形式でも若い人は来ると思う。 - 知らない分野のイベントには一人だと心細いが、興味のあることなら一人でも参加できる。

(4) 学生ワークショップの結果概要

●「環境に関する情報を効果的に受発信するアイデア・方法」についての意見

分野	意見
1. 情報源と伝達経路	● 学生の情報源としては、駅前のチラシや学校からの告知が主であり、ネットで情報を拾うことは少ない。 ● イベント参加のきっかけとして、今回は先生からの紹介や市のホームページが挙げられた。
2. 掲示板の活用と改善	● 以前住んでいた街では、印刷物などを貼る掲示板が街中に設置されており、地域のお祭りなどの情報提供に使われていた。 ● 通勤通学の道は変化があれば気づきやすいため、主要な道に掲示板を置けば効果がある。 ● 1週間ごとにポスターが変わるなど、変化があれば必ず目に留まるはず。 ● 掲示板は人が身近に使う場所、慣れている場所に貼る方が変化に気づきやすい。 ● 掲示板の形を改善し、ネット社会に合わせて画面化する。電子化された掲示板は、まず地図を表示し、その場所でどんなイベントがあるか(チラシで配っていた情報)を示すのが良い。災害時の伝達機能(110番通報ボタンなど)も持たせる。 ● 掲示板の設置場所は、光がよく当たる場所で、かつ人が必ず通る場所(例:調布駅、バスロータリー)が良い。 ● 掲示板の電力はソーラーパネルで賄うなど工夫する。
3. デザインとコンテンツの工夫	● 現代人は3行以上の文章を読めない人が多いため、短く伝わる文章にするべき。パッと見て瞬時に分かる仕掛けが必要。 ● (動画やデザインについて)文字が大きく、分かりやすいもの。一言でバンと載っているもの。興味を引くようなデザインが必要。 ● みんなが知っているキャラクター(例:ポケモン)を添えてコラボすると、全世代に目が止まりやすくなる。 ● 調布市の怪獣キャラ「ガチャラ」を、映画イベント時だけでなくもっと色々なイベントや街中で登場させ、例えば蕎麦を食べている姿など、街のイベントと絡めて活用。 ● 縦型の掲示板があったとしても、それだけでは見ないため、周囲に何か付加価値を与える。 ● 電子化された掲示板には、地図表示の他、災害時の伝達機能(110番通報ボタンなど)も持たせる。



開催中の画面

並行して策定していた調布市環境基本計画で見える化＋計画策定後の実際の取組に活用

施策名 ①気候変動への適応策の推進



●施策に関する背景や現状

◆前計画までの進捗

- 夏季の異常な暑さへの対策として、市報・ホームページにより熱中症への注意喚起を実施しています。
- クーリングシェルトアの指定と情報提供を行い、市民の暑熱対策を促進しました。
- 前計画において、環境指標の設定はありません。

◆国際動向、国や東京都の動向、社会情勢

- IPCC 第6次報告で適応と緩和の同時推進の重要性が強調され、各国が熱波・豪雨・海面上昇等に備えた国レベルの適応計画を改定し、実行段階に入りつつあります。[国際動向]
- 国は令和3(2021)年に「気候変動適応計画」を改定し、セクター別の適応策を整理しました。東京都では令和6(2024)年度に適応計画を改定し、豪雨・熱波対策や「東京くらし防災」等による意識啓発などハード・ソフト一体の施策を強化しています。[国・東京都動向]
- 令和6(2024)年、熱中症特別警戒アラート・クーリングシェルトアの運用が開始されました。[国・東京都動向]

◆市民意識調査・ワークショップでの意見

- 「異常気象への備え」は市が取り組むべき課題との回答が多く、気候変動への適応策の強化が必要。[意識調査]
- 再エネ導入のきっかけとして「災害・防災対策」が挙げられており、この側面から導入メリットを伝える情報発信を強化。[意識調査]
- 涼しい空間(教室、体育館)での学び場づくり。[ワークショップ]
- 電子掲示板の設置と災害時伝達機能(110 番通報ボタンなど)の組み込み。[ワークショップ]
- 非常用電源・ポータブルソーラー等の体験型普及啓発(防災×環境)。[ワークショップ]

背景や現状を踏まえた課題

- 夏季の猛暑・酷暑が増加が顕著である中、熱中症の予防など、猛暑・酷暑による被害の回避や軽減のため、適応策を強化していくことが必要です。
- 集中豪雨などの発生頻度が増加傾向にある中、気候変動の影響による水害、土砂災害といった災害リスクの回避や軽減するための適応策を強化していくことが必要です。

【調布市での取組】

■クーリングシェルトア(指定暑熱避難施設)の指定

熱中症特別警戒アラートが発表された際に、暑さを避けて休憩が取れる場所を提供する施設として、クーリングシェルトアの指定を行っています。クーリングシェルトアには、市庁舎、公民館、図書館等の市の公共施設のほか、東京都の施設、民間の施設があります。なお、調布市では暑さをしのぐための休憩場所としてアラートの発表にかかわらず施設を開放しています。

●施策の方向

気候変動の影響に対処し、被害を少なくすることで市民の暮らしと生態系を守ります。そのために、水害対策、熱中症・ヒートアイランド対策、自然環境に対する適応策を進めます。

●施策と関係する主な取組と事業

◆水害対策の推進(雨水の流出抑制、雨水の円滑な排水、災害時の安全対策)

市域全体で雨水の流出抑制と円滑な排水を進め、災害時の備えを強化し、水害や浸水被害のリスクを低減します。

◆熱中症・ヒートアイランド対策の推進(普及啓発と対策の推進)

熱中症予防の普及や室内外での対策、ヒートアイランド対策を総合的に進め、暑熱から市民の健康と安全な暮らしを守ります。

◆自然環境に対する適応策の推進(水と緑、生物多様性の保全・回復、持続可能な農業の推進)

水と緑の保全・再生、生物多様性の保全・回復、持続可能な農業を進め、自然環境への影響を抑えながら豊かな生態系を守ります。

取組	主な事業	担当課
◆水害対策の推進(雨水の流出抑制、雨水の円滑な排水、災害時の安全対策)		
	●雨水浸透・貯留設備の設置及び雨水利用の推進(再掲)	営繕課・環境政策課・下水道課
	●道路等への透水性舗装の導入(再掲)	下水道課
	●下水道の老朽化・劣化対策等の推進(再掲)	下水道課
	●水害・土砂災害ハザードマップの更新等による災害時の安全の確保	総合防災安全課
◆熱中症・ヒートアイランド対策の推進(普及啓発と対策の推進)		
	●エアコン利用や日傘活用など熱中症予防・対処方法の普及啓発	産業振興課・高齢者支援室・健康推進課・環境政策課・各施設所管課
	●建物の断熱化や日よけの設置など室内における熱中症対策の促進	
	●職場の熱中症対策の促進や屋外活動時の熱中症対策の促進	
	●屋上緑化・壁面緑化・街路樹活用を通じたヒートアイランド対策の推進	まちづくり推進課・道路管理課
◆自然環境に対する適応策の推進(水と緑、生物多様性の保全・回復、持続可能な農業の推進)		
	●下水に油等を流さないことや節水等についての普及啓発(再掲)	下水道課
	●崖線樹林地等の保全管理(再掲)	緑と公園課
	●生物多様性保全に係る取組の整理と体系化や生物調査による基礎情報の収集等を通じた生物多様性の保全と回復	環境政策課・緑と公園課
	●農家への環境保全型農業の推進に関する情報提供	農政課

市民・市民団体や事業者에게期待される役割や取組

市民・市民団体	●高温・豪雨・風水害への備えとハザード情報の確認を行います。 ●住まいの断熱・日射の遮蔽や雨水貯留により気候変動の影響による被害軽減に努めます。 ●要配慮者の見守り・避難支援に協力します。
事業者	●事業継続計画(BCP)に気候リスク対策を組み込みます。 ●施設の浸水・暑熱対策や在庫・物流の代替策を整えます。 ●熱中症対策と就業環境の改善を行います。